

スマイル
被災地域に笑顔が戻りますように

PBA すまいる
more

May the LORD smile on you and be gracious to you.
主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。
(民数記 6章25節)

「PBAすまいるmore」は、東日本大震災の被災地域をはじめ、近年起こる自然災害によって被災された地域の放送継続の応援を呼びかけます。

2024.3

彼らの満ちあふれる喜びと極度の貧しさは、
苦しみによる激しい試練の中にあってもあふれ出て、
惜しみなく施す富となりました。

(コリント人への手紙 第二 8章2節)

元旦の夕方、きっと久しぶりに会う家族や親族の方々と楽しい食卓を囲んでいた方が多かったことでしょう。能登半島を中心とした地域に巨大な地震が起こり、多くの方々がお亡くなりになり、怪我をし、家や大切なものを失い、お一人一人が、また地域全体が、今もなお困難な状況に置かれています。

失われたいのちを取り戻すことはできませんが、主なる神からの慰めと平安が、お一人一人に与えられ、一日も早く安心して生活できるようにと祈ります。全国のパートナーの皆様もそのように祈っておられることでしょう。

最近しばしば耳にするようになった外来語で、ウェルビーイング (Well-being) という言葉があります。私が大学で社会福祉を学んでいたころ (1970年代) は、「よく生きること」と訳されていましたが、今では、「(人が) 身体的・精神的・社会的に良好な状態にあることを意味する概念」とされているようです。

冒頭のみことばにあるように、エルサレム教会の窮状を知ったマケドニア地域の諸教会は、彼ら自身が極度の貧しさに置かれていたにもかかわらず、「あふれ出て、惜しみなく」(2節) 献げる豊かさを表しました。エルサレム教会と、そこに集う兄弟姉妹のウェルビーイングが実現できるように、「自ら進んで、力に応じて、また力以上に献げ」たのです (3節)。

自然災害によって「よく生きること」が妨げられている今こそ、全国の諸教会が、被災された地域のウェルビーイングが実現できるようお手伝いしたいと思います。

災害地域 (被災地) 放送継続支援の働きは、これまでの東北3件に加え、2024年度は石川県を加えます。各地に立てられている放送伝道の働きが、これからも継続できるように、皆様の篤い祈りと、ご支援をよろしくお願いいたします。

(一財)太平洋放送協会

常務理事 大井 満



地方教会に 仕える者として



石川県放送伝道協力会
会長 岡田 仰
(金沢独立キリスト教会 牧師)

あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。
あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。

(マタイによる福音書 5章14,16節 新共同訳)

地方教会に仕える者として、いつも、世の光放送伝道の働きを感謝しております。

去る1月1日、私たちの県の能登地方において、大きな地震が発生し、大変甚大な被害を各地にもたらしました。この時に、すでに、この地で長く交わりをもってきました石川県放送伝道協力会が中心軸となって、全国の諸教派、諸教会の支援、全キ災、九キ災、ハンガージェロ、OBJ、OM、救世軍などをはじめとする災害支援団体の方々の援助をいただき、能登地震キリスト災害支援会（能登ヘルプ）を立ち上げ、規約を作り、支援金の口座を開設して、支援の働きをはじめしております。

すでに、PBAをはじめとして、さまざまな方々、教団、教派から、ご支援、支援金をいただいております。その事を、紙面を借りて、心から感謝申し上げたいと思います。

私たちは、この能登ヘルプの働きの理念を、「キリストに仕える者として、キリストの心をもって、被災地と被災教会に仕える」とし、具体的な方針として、**(1)愛の働きとして、神の愛の心をもって (2)秩序をもって (3)継続性をもって (4)互いに協力して (5)祈りをもって**を定めて、今、支援物資、家の整理や炊き出しなどの活動しております。

今、この働きに従事しながら、私の心にある二つのことを分かち合わせていただきたいと思ひます。

一つは、この時、善きサマリヤ人として歩もうということです

日々の務めの忙しさゆえに、強盗に襲われた傷ついた旅人の横を通り過ぎた人ではなく、善きサマリヤ人のように、ということです。今、能登の人たちは、この地震によって、魂も、心も体も深く傷ついています。ある面、あの旅人の横を通り過ぎた人々のように、私

たちも日々すべきことがあります。余裕がありません。しかし、やはり、キリストの十字架の愛に生かされたものとして、私たちは、善きサマリヤ人の道、犠牲を払って手を差し伸べていく道に取り組んでいこうと思っています。

もう一つは、この時、キリストの光をもたらす時としてとらえようということです。

能登は、今も、強力な仏教王国です。今日まで、多くの宣教師たちが、この地に福音を伝え、教会がいくつか生まれました。それは、素晴らしいことですが、しかし、やはり依然として未伝地のような所でもあります。福音を語っても、なかなか聞いていただくことはできません。しかし、イエス様は、荒れたこの世に来られて、神の愛、神の光をお見せになりました。私たちも、今は支援の時であり、声を大にして、伝道する事はできません。しかし、私たちキリスト者が、この主の模範に倣って、主の光を頂いたもの、世の光として、さまざまな支援活動を行っていく。それは、かの地に、キリストの新しさ—あわれみ深さ、親切、謙遜、助け合い、誠実などなど—を見せることになるはずです。それは、間違いなく「見せる」宣教です。そして、それが、種まきとなり、そのことによって、いつか、かの仏教王国の地に、十字架の花が咲くことを信じ、期待して取り組んでいこうと思っています。

どうか、被災地の生活の復興のために、同時に、精神的、霊的な癒しのために、さらに、能登ヘルプの働きが祝福されて、やがて、かの地に、十字架の花が咲くようお祈りしてください。

パートナーの皆様と、皆様の愛するご家族、教会の上に、主の豊かな祝福がありますように、お祈りいたします。

岩手世の光協力会

代表 南鎮秀
ナムジンスウ
(水沢聖書バプテスト教会 牧師)



東日本大震災以降、12年間にわたるご支援に心より感謝いたします。岩手県状況を申し上げますと、コロナ禍の3年間を経て岩手県の教会の数は、震災前の58堂から現在の66堂まで、その数が増加しています。増加要因としては、国内外から震災復興支援のため人が集まってきて教会を開拓した影響があると考えられており、不幸中の幸いといえるのではないかと考えております。ところが、被災地の教会は開拓するや否や、門を閉ざす危機に瀕していることも事実です。

その対策として「3・11いわて教会ネットワーク」を作り、岩手県のすべての教会が共に前進できるような横のつながりを強化しています。また昨年はPBA（太平洋放送協会）のご支援により、「世の光のつどい」が沿岸の教会と開拓教会にて開催され、岩手県の皆様と御恵みを分かち合うことができましたことを大変嬉しく思っております。今後とも皆様のご計画が岩手の地にて成就されますようにお祈りしております。引き続き、皆様のお祈りをお願い申し上げます。

「世の光」宮城放送伝道協力会

委員長 山本嘉納
カノウ
(仙台聖泉キリスト教会 牧師)



2024年も早く2か月が過ぎようとしています。時の過ぎるのがこんなにも早いのかといよいよ実感させられる年齢になりました。東日本の大震災から来月で13年。ある方々にとってはその日から時間が止まってしまっているというお話を聞いて久しくなりました。話題に取り上げられることもだんだんとなくなっていた今年の元日に能登半島を大きな地震が襲いました。被災地の映像を見ながら私たちも同じだったと急に思い出され、多くの隣人とまた、あの日のことを振り返る時でした。同時に何も起こらなかつたら巡り合うことは無いはずの多くの方に出会い、助けていただいたことを改めて思い起こしました。「あの時のあの方は今何をしているのだらう。神よ。どうぞ今、その方の必要にお答えください。」震災前にはそのような祈りは一度も私に教えてくれませんでした。今年度も変わることなく宮城県下にキリストの福音放送が届けられていることも感謝して主に栄光を帰します。

福島県放送伝道を支える会

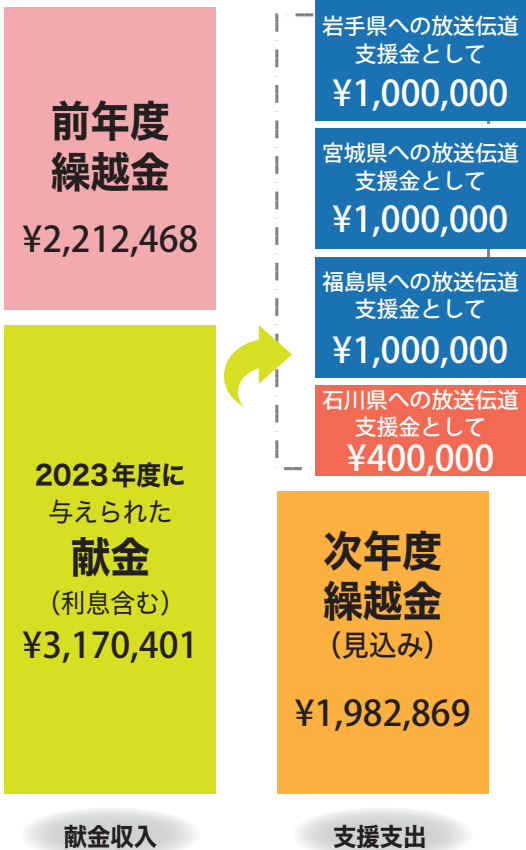
代表 長尾秀紀
ナガオ ヒロノリ
(郡山キリスト共同教会 牧師)



「みことばを宣べ伝えなさい。」(テモテへの手紙 第14章2節)
皆様、東日本大震災から13年が経ちました。いつも変わらず福島のためにお祈りごと支援を感謝いたします。

福島は1970年にラジオ「世の光」が始まり、1993年からはTV「ライフライン」との二刀流となりました。しかし3年で経済的に行き詰まり、1996年よりTV一本になりました。ただしラジオ献金は継続し、1年分がたまれば二刀流を再開するというスタンスで今日まで参りました。この間、2000年ごろに15か月間、大震災の前後には7年半も、二刀流が実現したのです。経済的には常に厳しく、現在も100万円のご支援をいただいております。しかし一方で、必要な放送料660万円のうち560万円は福島でさげあげている、ということも事実です。そしてもっと大事なことは電波によって福音が宣べ伝えられ続けているという事実です。皆様、これからも共に歩んでいただけますように、よろしくお祈り申し上げます。

災害地域(被災地)放送継続支援献金のご報告とお願い



日本全国、多くの皆様のご支援により、今日も災害地域(被災地)で福音が届けられています。皆様による尊いお祈りとご献金を心より感謝申し上げます。

◆2023年度の感謝とご報告

2023年度、皆さまから3,170,401円(2024年2月20日時点)の献金が与えられ、岩手県、宮城県、福島県へ各100万円ずつ、さらに能登半島地震のあった石川県へ緊急支援として40万円、計340万円の支援金をお届けすることができました。次年度繰越金は1,982,869円の見込みとなります。

◆2024年度 献金のお願い

2024年度は、石川県、岩手県、宮城県、福島県の放送継続のために、計500万円の支援を必要としています。また、前述の4県以外の地域で災害が発生した場合、速やかな支援を行うことを通して、全国の放送伝道の灯が消えることのないよう、備えさせていただきたいと願っています。

2024年度も災害地域(被災地)のために祈り、お助けください。

必要額 500万円

- ・石川県福音放送伝道協力会 ……200万円
- ・岩手世の光協力会 ……100万円
- ・「世の光」宮城放送伝道協力会 ……100万円
- ・福島県放送伝道を支える会 ……100万円

皆様からお預かりしたご献金は、震災被災地を含む、災害により支援を必要としている各地協力会・支える会の放送継続のために全額を用いさせていただきます。

献金の振込先		
■ゆうちょ銀行	振替口座 00190-0-17121 一般財団法人 太平洋放送協会	同封の払込取扱票をご利用ください。
■ゆうちょ銀行	〇一八(読み ゼロイチハチ)(店番018) 普通預金 2249841 一般財団法人 太平洋放送協会	お手数ですが、「振込依頼人名」の前に「ヒ」とご入力ください。
■みずほ銀行	九段支店(店番532) 普通預金 1618687 一般財団法人 太平洋放送協会	
■WEB献金	www.pba-net.com/partner Paypal、クレジットカード  	 入力画面で「被災地放送継続支援献金」を選択してください。

お問い合わせ・振り込みのご連絡は、PBAパートナー係(Tel.03-3295-4921)まで